

菊の博学

- ・キク科キク属に含まれる宿根草で、学名をクリサンセマム・モリフォルム(Chrysanthemum morifolium)といいます。日照時間の長い時期に成長して、日照時間が短く(13時間以下)なるとつぼみをつけ開花する短日性植物です。
- ・早咲きは開花期が11/3前後、中咲きは開花期が11/7前後、遅咲きは開花期が11/10前後です。

菊の歴史

- ・菊の原産地は中国で3,000年以上の歴史があり、日本へは奈良時代中期に遣唐使などによって、薬用植物(解熱、頭痛、めまい、長寿など)として入ってきたと言われています。
- ・平安時代には、9月9日の重陽の宴で花を觀賞し、赤白黄の綿を花にかけて菊酒を飲み、その綿で身体をぬぐう「着せ綿の行事」が行われていました。(老いを防ぐ効果がある。)
- ・一般庶民に菊栽培が広がったのは、江戸時代中期の1710年代(正徳～享保)に花径18cm以上の大菊の新花を競う「菊合わせ」が盛んになった頃からです。入賞すると新花の苗1本が3両にもなったため、一攫千金と名誉をかけて一般愛好家が交配実生に熱中し、次々と優れた品種が誕生しました。
- ・また、この時代に地域独特の古典菊も誕生し、江戸の植木屋が菊で富士山や名所の風景、菊人形などを作りはじめ、現在の菊作りの型がほとんど揃ったと言われています。
- ・明治20年代には、各地に菊花会ができ、大菊三本仕立て(盆栽)が流行し、その華を競い始めました。懸崖や盆栽は大正初めに流行し、以後広く作られるようになりました。
- ・日本で大きく発展した菊は、明治以降、世界各地に運ばれ、品種改良がなされました。オランダではスプレー菊、アメリカでは鉢花用のポットマムが発達しました。

菊の種類

- ・大菊(和菊): 花の直径が18cm以上で、花型によって「厚物」、「管物」、「広物」に分かれます。「厚物」は、更に「厚物」、「厚走り」、「大掴み」に分かれ、「管物」は、管の大きさで「太管」、「間管」、「細管」、「針管」に分かれます。また、「広物」は一重咲きの「一文字」と八重咲きの「美濃菊」があります。
- ・古典菊(和菊): 江戸中期に各地の殿様の保護奨励によって地域独特の発展を遂げた菊の総称で、昔の地名で呼ばれています。その種類には、嵯峨菊、伊勢菊(松坂菊)、肥後菊、江戸菊、美濃菊、奥州菊などがあります。
- ・小菊(和菊): 花の直径が9cm未満で山菊と呼ばれることもありますが、懸崖仕立てや盆栽用に育成された小輪の菊です。花色、花型、生育の特徴など極めて多彩で、種類が豊富です。
- ・洋菊類: 洋菊とは、欧米に渡った日本の菊がそれぞれの国の好みによって改良されたものの総称であり、クッションマム、ポットマム、スプレー菊などがあります。

菊の仕立て方

- ・大菊: 三本仕立て、一本仕立て、七本仕立て、千輪作り、競技用切花、ダルマ作り、福助作りなど
- ・古典菊: ほうき作り、七五三作り、天地人作り、篠作り、肥後菊花壇など
- ・小菊: 懸崖作り、杉作り、造形、ポットマム、クッションマム、盆栽作り、直幹仕立て、双幹仕立て、岩付け・木付け盆栽、盆栽懸崖、柳仕立て、筏吹き・根つながり、寄せ植え、木付けなど
- ・その他: 弥彦作り、菊人形、総合花壇など

問い合わせ先

岐阜市都市建設部公園整備課

〒500-8701 岐阜市今沢町18番地

TEL:(058)214-2184 FAX:(058)262-0512

岐阜公園管理事務所

〒500-8003 岐阜市大宮町1丁目46番地

TEL:(058)262-3951 FAX:(058)262-3951

織田信長公 岐阜入城・岐阜命名 450年

第46回 岐阜公園菊人形・菊花展

< 信長公450プロジェクト特別展示開催 >



開催期間:平成29年10月21日(土)~11月19日(日)

AM9:00~PM5:00(※開催中無休、無料)

第46回菊人形テーマ『信長公、岐阜入城』

菊作りの名人たちが育てた大菊、小菊、美濃菊の作品をはじめ、菊人形や華やかな菊庭園などが展示されます。また、菊人形の前庭には、色とりどりの小石を敷きつめ、鳥などの形に刈り込んだ樹木を配するなど、「アビラ・ヒロン」の「日本王国記」の記述に基づき復元された庭が楽しめます。



菊人形(第45回テーマ 信長公、稲葉山城攻略)

会場:岐阜公園(岐阜市大宮町1丁目)

駐車場:普通車:堤外駐車場179台(一回300円):鏡岩緑地279台(無料)

バス:9台(一回1,020円)・・・要事前予約

アクセス:JR岐阜駅または名鉄岐阜駅からバス15分

「岐阜公園歴史博物館前」下車徒歩2分

※周辺駐車場は混雑が予想されますので、公共交通機関をご利用ください。

主催:岐阜市

共催:岐阜公園愛菊会、岐阜市緑化推進研究会

平成29年度に岐阜県清流の国ぎふ推進補助金を受けています。岐阜市

菊人形・菊花展案内図



山菊総合花壇

木付け、石付け及び文人等、5鉢以上の作品を組み合わせ、一つの花壇として構成したものです。これは、この地方特有の作風で、他ではほとんど見られず本菊花展の特色を表すものです。

大菊花壇

大輪菊の3本立ち12鉢もしくは、一本立ち20鉢をもって一つの花壇を構成したものです。

美濃菊

皇室の紋章の図案といわれる一文字菊を祖先にもつこの菊は、名前から推測されるとおり岐阜が発祥の地です。

この花の特徴は花卉の表裏の色が異なるものがあり、一種の双重味と鮮やかさを持っています。

千輪仕立て

1株でできるだけ多くの花を咲かせるよう仕立てます。100輪以上咲かせたものを千輪仕立てと規定しているところもあります。

山菊総合花壇



大菊花壇



千輪仕立て



大菊小作り

7月頃に菊の芽差しを行い、比較的短期間で育成し花を楽しむもので、一鉢一本立として10鉢をもって一花壇を構成します。

小菊盆栽

この部門は、小菊自体の特性を生かし、作品の中に幹や根を強調し、盆栽風に仕立てられたもので、数年栽培されている古木も含まれます。

小菊盆栽

この部門は、全国的にも珍しいこの地方特有の作風で、古木を主体にして小菊を育成したもので、あたかも樹齢数十年を経て現在に咲き誇っている感をかもし出しています。

自由花

この部門は、作者が自由な発想に基づいて育成した菊花作品を展示したもので、出展にあたっては大菊、新花、古花等、規定はありません。

大菊小作り



小菊盆栽



小菊盆栽



平成29年度菊人形テーマ「信長公、岐阜入城」

えいろく ねん つまのうひめ おい さいとうたつおき お ぎ ふ にゆうじょう のぶながこう ちめい い ぐち ぎ ふ あらた
永録10年、妻濃姫の甥、斎藤龍興を追い岐阜に入城した信長公が地名を井の口から岐阜に改めてより
こんにち ねん のち とくがわ ぼくふ およ ねんかんあてい どうち よういん のぶながこう たくえつ はつそうりよく
今日まで450年、後の徳川幕府が凡そ300年間安定して統治できた要因は、信長公がその卓越した発想力

によって実施した政略の延長線上にあると言えます。信長公は武士と農民を完全に分離するという
じっし せいりやく えんちようせんじょう い のぶながこう ぶし のうみん かんせん ぶんり
それまでの守護大名も戦国大名も思いもなかった新しい発想に基づき、専門の戦闘集団を作り上
しゅ ごだいみょう せんごくだいみょう おも あたら はつそう もと せんもん せんとうしゅうだん つく あ
げた。佐々成政、前田利家らを筆頭とした、母衣衆と謳われる直属の精鋭部隊を結成できたのもそれ故

さつきなりまさ まえだとしえ ひつとう ほろしゅう うた ちよくぞく せいえいぶたい けつせい ゆえ
であらう。また、関所の撤廃、菜市菜座という商業・流通革命は領内の多くの経済活動を飛躍的に発
せきしょ てっばい らくいちらくざ しようぎょう りゅうつうかくめい りょうない おお けいざいかつどう ひやくてき ほん
展させ、永楽通宝の旗印は天下布武の印判と両輪をなし、武力のみならず経済面からも全国制覇を目
てん えいらくつうほう はたじろし てん か ふ ぶ いんぱん りょうりん ぶりよく けいざいめん ぜんこくせい は め
指すとしたその強烈な意志を示すものであった。念願であった交通の要衝である美濃を手中にした
ざ きょうれつ い し しめ ねんがん こうつう ようしやう み の しゅちゆう
のぶながこう いくさ な へいわ よ なが ゆめみ てんかとういつ めざ
信長公は、戦の無い平和な世の中を夢見、天下統一を目指したのであろう。

特別展示会場舞台解説

- ① 道三と濃姫……信長公と美濃を治めていた斎藤道三の娘である濃姫とで、政略結婚が行われた。
道三は会見で大うつけ（愚か者）と噂されていた信長公の真の姿に驚嘆した。相手の本質を知り、お互いは緊密な関係となっていったと言われている。
- ② 稲葉山城攻略…秀吉は斎藤勢攻略のため虚実を取り混ぜた噂を風潮し、敵方の有力武将であった美濃三人衆を取り込み、稲葉山城を丸裸にしたと言われている。
- ③ 天下布武……信長公は井の口を岐阜と命名し天下布武の朱印を使い始める。それは信長公が武により天下を統一し、新たな政策を広める（諸説あり）という強い意志の表れだったのでしよう。
- ④ 長篠の戦い……鉄砲3000丁の三段打ちという信長の奇抜な作戦により、負けは必至と思われていた情勢を覆し、武田軍を一網打尽にしたと言われている。（諸説あり）
- ⑤ 安土城築城……大型の天守をもつ絢爛豪華な城と伝えられており、信長公は自分こそが天下を治めるにふさわしいという意志を形にしたものだったのでしよう。